

環境倫理とは

コトバンク参照

人間の自然に対する傲慢(ごうまん)さが環境破壊を招いたとの反省に立ち、生態系に対して人間がどのような義務を負うかを問う倫理の一分野である。

環境思想

自然を保護しようとする考え方は、太古の昔から世界各地に存在していた。それは自然に対する信仰や、信仰に基づく教えなどによるもので、その論理や実践方法は時代やコミュニティ(生活集団)によってさまざまであった。
自然や事物にも霊や精神などが宿るという**アニミズムの考え方**がそうである。

環境倫理の芽生え

先進国は、近代科学や産業革命以降の社会変革を進展させて多くの政治・経済・社会のシステムを主導している。

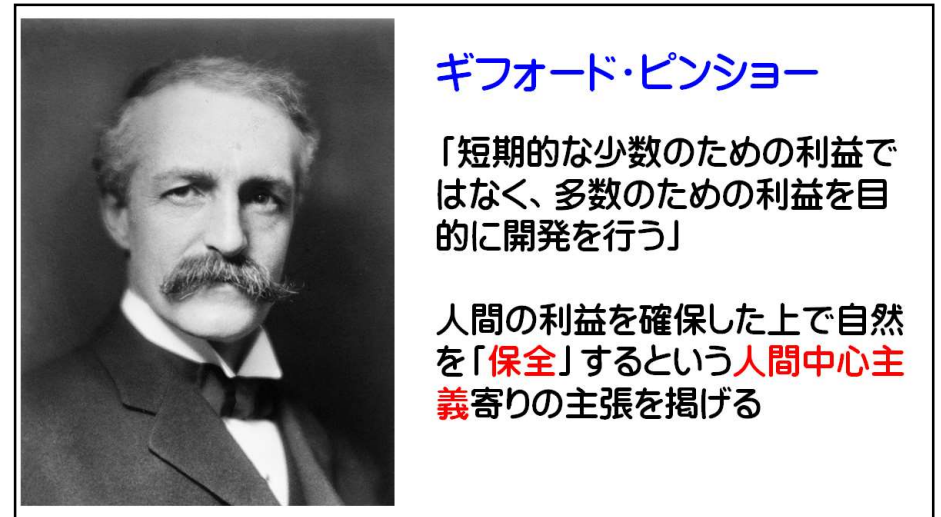
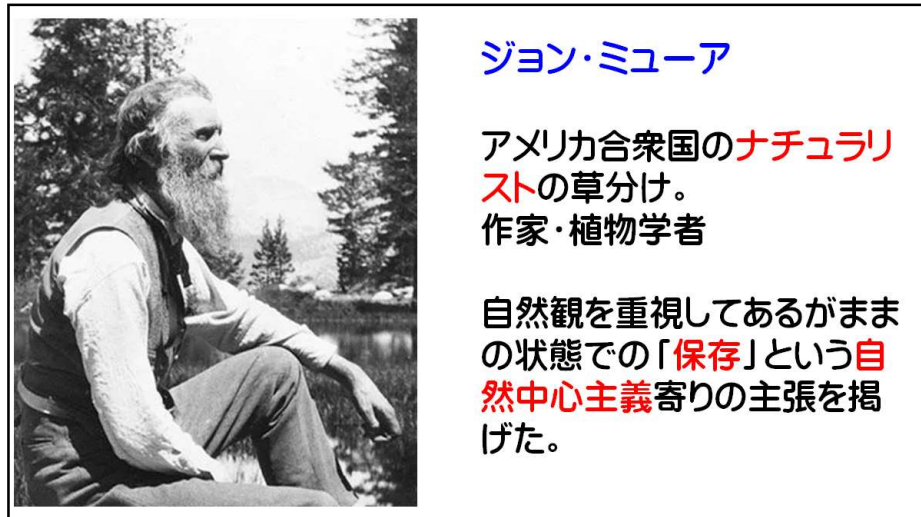
そして人類は繁栄を迎えた一方、環境問題は規模が増大し複雑化してきた。

現代の環境破壊は

- その規模が桁違いに大きい
- 地球を破滅させうるほどの技術や能力を持った
- 環境破壊の原因も種類も多様化した

などが挙げられる。

人類の繁栄とそれに伴う環境破壊の進展に時を同じくして、環境倫理の思想も発展してきた。





環境倫理学の変遷

保存と保全の対立や論争はヘッチヘッチ溪谷のダム建設の際の対立以降も継続している。

保存は**ディープエコロジー**、保全が**シャローエコロジー**として広まると同時に、**人間視線の倫理ではなく、それ以外の視線を取り入れた「環境倫理学」**という言葉が生まれる。

そして、1970年代に「**環境主義主流**」へと推移した。これは、自然保護の最終目標が「**人間のため**」という**人間中心主義の欠点を反省し**、「**自然そのもののため**」という**自然中心主義**をいっそう強くめざそうとしたものだと考えられている。

新型コロナ
ウイルス

パンデミック

緊急事態宣言!!

マスクが
5倍の価格!

アルコール製品
8倍の価格!

トレットペーパー在庫切れ

商品が高騰して
製造や小売が増えて
社会全体が
まとまっていくなら
いいんじゃないかな

価格なんて
市場が決めるもの
なんだから
消費者が
とやかく言って
コントロールできないでしょ

はあ ~?!
そんなポツククリ商売
道徳的に
おかしいだろ !!

**正義についての
3つの考え方**

**功利主義
(最大幸福主義)**

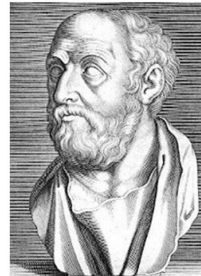
**リバタリアニズム
(自由至上主義)**

**美德の
促進**

功利主義について

行為や制度の社会的な望ましさは、その結果として生じる功利、有用性によって決定されるとする帰結主義の1つの考え方である。

倫理学における思考実験 ⇒ カルネアテスの板問題 トロッコ問題 救命ボート問題





カルネアデスは、古代ギリシアの哲学者。カルネアデスの板という問題を出したことで有名である。

彼はキュシネで生まれ、アテナイのアカデメイアで哲学を学んだ。

そしてアカデメイアの学頭となり、急進的な懐疑主義の立場からストア学派を攻撃した。

著作はないが、弟子のクシトマコスなどによって伝えられている。

生年：紀元前214年

死亡：紀元前129年

時代：ヘレニズム哲学

地域：西洋哲学

学校：Academic skepticism、プラトニズム

カルネアデスの板問題



紀元前2世紀のギリシア。一隻の船が難破し、乗組員は全員海に投げ出された。一人の男が命からがら、壊れた船の板切れにすがりついた。するとそこへもう一人、同じ板につかまろうとする男が現れた。二人がつかまれば沈んでしまうと考えた男は、その男を蹴飛ばして殺してしまった。

カルネアデスの板問題



現代の日本の法律では、刑法第37条の「緊急避難」に該当すれば、この男は罪に問われないが、その行為によって守られた法益と侵害された法益のバランスによっては、過剰避難と捉えられる場合もある。

フィリッパ・ルース・フット

(1920年10月3日-2010年10月3日)



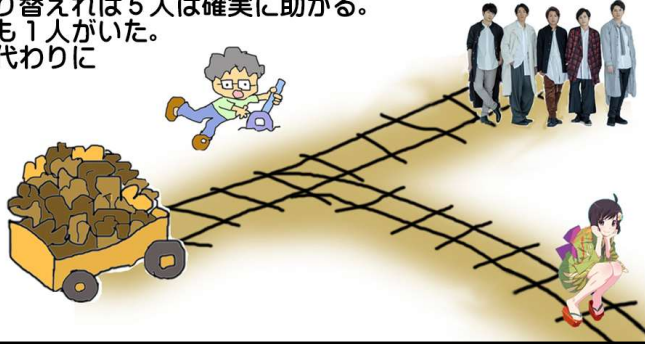
イギリスの哲学者。倫理学分野の業績で著名。

アリストテレスの倫理学が、より新しい義務論や功利主義の倫理学説に対抗できるほど現代社会の問題に適応可能であることを示した。

帰結主義への批判により分析哲学の内に規範倫理学を再び打ち立てようとした研究も非常に重要で、彼女が提起した「トロツコ問題」については今も議論が続けられている。

トロッコ問題

線路を猛スピードで走っていたトロッコの制御が不能になった。
 このままでは前方にいる5人が轢き殺されてしまう。
 この時たまたま、あなたは線路の分岐器のすぐ側にいる。
 トロッコの進路を切り替えれば5人は確実に助かる。
 しかしその別路線でも1人がいた。
 切り替えれば5人の代わりに
 1人が確実に死ぬ。
 あなたはトロッコを
 別路線に
 引き込むべきか？



功利主義の事例

貝木だ。貝塚の「貝」に枯れ木の「木」 貝木泥舟だ。
 新しい携帯電話を買いに行ったら、スマートフォンばかり
 だった。時代だねえ…。しかし「スマートフォン」って
 名前のわりにはあいつらむしろ太ったよな。
 横幅が携帯電話の倍ぐらいあるじゃないか。分厚いしよ。
 ポケットはそれどころか、もう全然入らな
 反面、画面はそれどころか、もう全然入らな



子どもが、浅い池で溺れている。
 周囲には自分しかいない状況である。

池の深さはヒザ程度、池に入って引き上げれば簡単に子どもは
 助けることができる。

しかし、もし助ければ、昨
 日買った新しい靴とスポン
 がダメになってしまう。

わたしは
 どうするべきか…



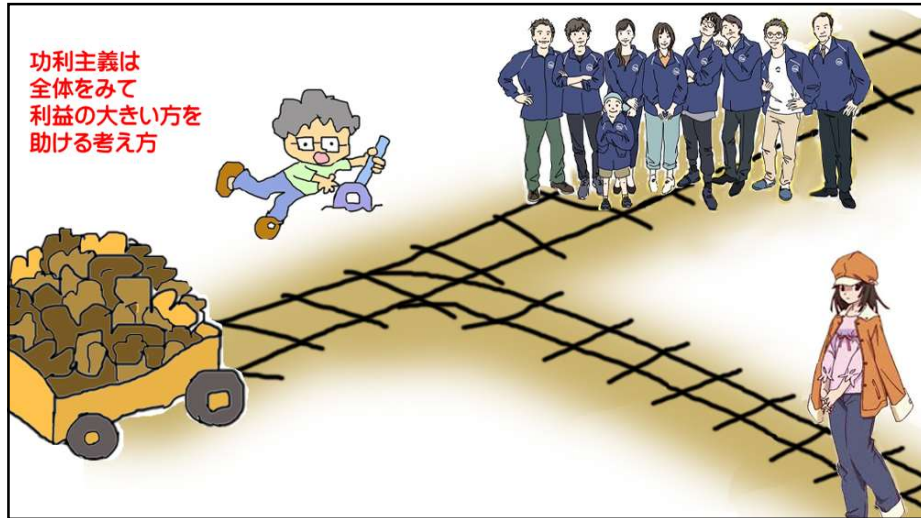
もちろん、助けるべきである！

この状況において、子どもを助けても助けなくてもいいのではな
 く、助けなかったら功利主義的に悪いことになるのである。

この道徳的判断の背後には、次のような原理が存在する。

非常に悪い事態を防ぐことが、その事態と同程度の道徳的に重要
 なモノを犠牲にしなくて済むのなら、その事態を防ぐべきである。

功利主義は、子どもの死という非常に悪い事態を、新品の靴とズ
 ボンという小さな犠牲によって防ぐことができる判断なのである。



功利主義のことが理解できたようなので、環境倫理学の本題に入ります。



環境倫理学の三本柱

環境倫理学にはさまざまな主義主張が林立し、中には対立もあり、論理的矛盾が生まれている。

基本的に以下の3つの大きな考え方に整理される。

1. 自然の生存権

人間だけでなく自然も生存の権利を持つ、「自然と人間の共生」という考え方。

2. 世代間倫理

現在を生きる世代は、未来を生きる世代の生存可能性に対して責任があるという考え方。

3. 地球有限主義

「有限な地球環境を守ることを優先する、生態系や地球資源を軸に物事を考える」という考え方。

地球有限主義での議論

人間中心主義に並んでフロンティア倫理も環境問題の原因とする見方があったが、**開発を続けることで人類の発展をめざすフロンティア倫理は現代ではすでに破綻しており、他の倫理に従う必要があるとされる。**

他の倫理として、ハーディンらは**救命ボート倫理**(1974年)、フラーやフレッチャーらは**宇宙船地球号**(1963年、のちの宇宙船倫理)を提唱した。

ハーディンらは人類の生存のためには、環境破壊で共倒れになるよりも、**先進国が途上国に対して行う援助を部分否定して犠牲を払うほうが良いと主張したが、激しい批判を受けた。**



救命ボートの問題

ギャレット・ハーティンが1974年に提案した資源分配の比喩である。

物理的に60人が乗れる救命ボートに、すでに50人が乗っている。海には投げ出された人が99人いる。この場合、救命ボートがとりうる選択肢は4パターンある。

- できるだけ乗せて、ボートは沈没する。
- 10人だけ乗せる。
- 自己犠牲の人がボートから降りて、できるだけ多く助ける。
- 安全係数を考えて、無理に人を乗せず、そのまま避難する。

社会的ジレンマについて

個人がよかれと思って行動しても、社会全体にとって望ましくない状態が生じることを「社会的ジレンマ」という。

たとえば、ゴミ問題についてみると、日本では増え続けるごみを循環させるために様々な法律が定められている。これら法律に基づいて、各自治体ではごみからの資源回収、住民の分別協力を考えてごみの収集を行っている。

しかし、どんなすばらしい資源回収システムであっても、そこに協力する人々がいなければシステムは立ち行かなくなる。また、皆が真面目に分別協力をしても、いい加減な資源回収システムだとやはり立ち行かなくなる。



ゴミの分別をすれば
環境保全の役に立つよ

自分だけ分別してたって
環境がよくなるわけないじゃん

分別したゴミがどのように利用されているのか、環境問題に対する効果、分別が社会にとって望ましいと思える自治体の努力が必要になる。そうしなければ、住民は分別協力しても何も良い事がないと考えるようになり、利己的な行動をしてしまう。そしてゴミの循環システムが機能しなくなるという社会的ジレンマとなってしまふ。

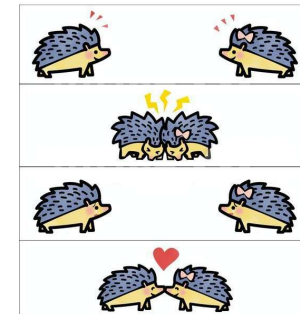


ごみの減量や分別は目に見えるものである。大きなごみ箱から小さなごみ箱に変わった、牛乳パックが資源として利用されたというように、構造的解決の手段である制度の効果や個人的解決の手段である行動の効果などが確認しやすいのである。

地球温暖化となると環境にどれくらい貢献したのか、理解が難しくなる。

LED電球に替えたからといって、どの程度温室効果ガスが減ったのかの把握は困難であり、温室効果ガスには国境もなく、効果の測定が難しい。

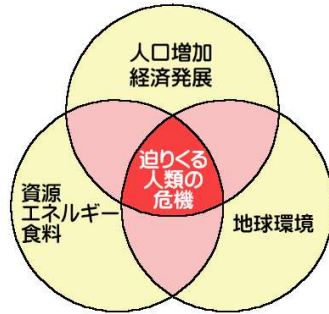
そのような中で、社会的ジレンマの状況も考えながら、人々に対して協力を増やすにはどうすればよいのか、人々がルールのない行動をしないように（便利さや快適さを少し我慢するように）働きかける「何か」をさらに検討していく必要がある。



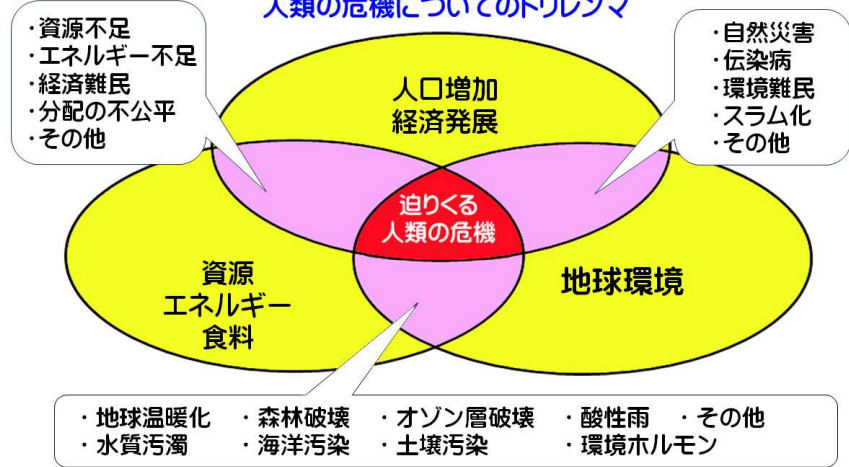
現代の環境に対する倫理的な理論は、多様に発展した。

自然環境、社会環境、都市環境など、人間の生活を取り巻く環境と、その人間や動植物への影響について、自然科学、地球科学、社会科学、人文科学などの多くの学問からのアプローチにより応用倫理学の研究が進展している。

歴史はまだ浅いが、様々な分野の研究者により、地球環境の研究が進んでいる。



人類の危機についてのトリレンマ



20世紀で最も偉大な歴史学者の「**アーノルド・J・トインビー**」は、

「**人類の生存に対する脅威は、個々の人間の心の中の革命的な変革**によってのみ、取り除くことができるのだ」と言っている。

したがって私は、環境問題に対する「心の中の革命的な変革」として、「地球にやさしい」という柔らかい言葉で終末期へ進むのではなく、「**社会正義のために**」というはっきりした言葉で環境改善を行うべきだと考えることにした。

特に先進国は、環境問題の本質を正確に理解し、環境改善こそが「正義」なんだと考えなければ、すぐに終末が来るであろう。